

## ■ 修士論文要旨

# 日中酪農業に関する比較研究

Comparison research of dairy farming industry between Japan and China

神奈川大学大学院 経営学研究科  
国際経営専攻 博士前期課程

扎 西

Zhaxi

第一章では日本と中国の酪農業の発展について述べながら、両国の生乳生産量と乳製品生産量の推移データを用いて、生産量の今までの歴史について論じた上、両国の乳製品生産史上、消費者に大きなショックを与えたメラミン事件とヒ素ミルク事件の概要及び、事件に至った原因と事件後の両国政府の対策について考察した。

日中両国の酪農業の信用を失墜するような大事件ともいえるメラミン事件とヒ素ミルク事件の原因として、製品に毒が入っていることさえ知らずに市場に流通させたという食品製造業としてあるまじき行為だと思う。事件後の対策にいて、中国の政府の対策、あるいは中央の決断が「速さ」だけを重視したことにも見える。一方、日本政府の対策は、事件から長い年月をかけたため、今回の事件を重視し、いかに慎重になっていたことが推測される。

第二章では、日本と中国の両国における生乳生産の地域特徴や生乳及び乳製品の生産の現状を分析し、日本と中国酪農に存在する問題点を明らかにした。

日中両国の酪農業の現状、生乳と乳製品の生産量からみると、中国酪農の方は、総生産「量」的

に成長しているものの、乳用牛一頭当たりの生産量が少ないことや、生産過程上の衛生問題など、「質」的な生産方式はまだ産業として重要な課題である。一方、日本の酪農は、乳用牛一頭当たりの生産量や、生産過程上の衛生管理など、「質」的にかなり成長しているものの、酪農戸数や牛の頭数の減少により、生乳総生産量の減少や、バター不足など「量」的にまだ課題が残っている。

第三章では、統計データによる分析し、問題点を探り出した上、日中両国政府による酪農業への対策について論じた。

日中両国の酪農対策について、日中両国はそれぞれ国家の経済状況や、国民生活水準などにより、さまざまな問題を抱え、日中両国の政府は、酪農産地として重要な地位を維持し続けるためにそれぞれの酪農問題について政策を実施し、確実に成果を出してきた。だが、両国の酪農業の現状問題からみると、まだ足りない点がある。それは、「量」や「質」だけにこだわらず、両国は自国が持つ長所を維持しながら、短所の改善を進めていくことが重要である。

第四章、日中両国のグローバル化による酪農への影響について論理展開した。

日中両国の酪農は今、モノ、資本、情報が自由に移動できるような経済圏の構築など、貿易の自由化により、酪農のグローバル化も進んでいる。その結果によって、両国の牛乳・乳製品市場に大きな影響を与える可能性がある。酪農・乳業はこうした環境変化や市場競争に耐えることが大事である。